



## 第 1 編

第5次 今別町総合計画

# 序論

第 1 章 総合計画策定にあたって

第 2 章 計画策定の基礎条件

第 3 章 計画の期間と位置づけ

第 4 章 前期計画の評価

## 第1章

## 総合計画策定にあたって

「第5次今別町総合計画」は、北海道新幹線奥津軽いまべつ駅の開業と同時期に策定され今別町の今後のまちづくりの指針となる計画です。

「第5次今別町総合計画（前期計画）」においては、基本構想に定めた政策の実現を目指して、町民の皆さんと共にまちづくりを進めてきたところですが、私たちを取り巻く社会環境は急激な速さで変化し、特に少子高齢化・人口減少に歯止めがかからない状況となっており、地域のコミュニティの崩壊危機や超高齢化に伴う福祉・介護・医療の問題など、当町においても様々な影響を受けています。

東日本大震災から10年目を迎え、また、新型コロナウイルス感染症の発生は、人々の危機管理意識の考え方を一変させるものです。

「第5次今別町総合計画（後期計画）」においては、これらの社会環境の変化に対応するため、「第5次総合計画（前期計画）」で取り組んできた事務事業の成果や課題等を検証し、改善・見直しを行い、人口減少対策と地域の活性化を図り、引き続き町の目指す将来像の実現に向けて町民の皆さんと行政が連携し、持続可能なまちづくりに取り組みます。

## ■ 町の将来像

みんな生き生き健康長寿奥津軽いまべつタウン

## ■ 基本理念

- I 産業を振興し将来を担うひとを育み安心して暮らせるまち
- II 地域資源を活かし交流促進でにぎわいを創出するまち
- III みんな生き生きお年寄りと子どもにやさしいまち

## ■ 基本方向

- I 産業振興により地域の活力を創出し定住を促進するまち
- II 地域資源を活かした交流を促進し地域活性化を推進するまち
- III だれもが生き生き安心して暮らせる健康長寿のまち
- IV 効率的で健全な行財政運営のまち

## 第2章

## 計画策定の基礎条件

## 第1節 町の沿革

当町の発祥は極めて古く、今から1,200年余年前平城天皇の大同2年(807年)この地を「今淵阜内の郷」と称したのがそもそもの始めとされています。

鎌倉時代、津軽は六郡(平賀、田舎、鼻和、奥法、入間、有間)と外ヶ浜に分かれており、当町は外ヶ浜に属していました。

藩政時代になると、津軽六郡を廃して平賀、田舎、鼻和の三郡に分け、なお外ヶ浜はその域外に置かれました。

その後、郡を庄と改め今別町は、田舎一ノ庄後潟組に属することになり、この後潟組は上磯地区のうちの油川以北旧40ヶ村をもって組織されました。

四代藩主津軽信政の時代に四浦、五浦の制を設けることになり、青森、鱒ヶ沢、深浦、十三の四町を四浦として、各々町奉行二人と補助機関が置かれました。碓ヶ関、大間越、野内は三浦となり、町奉行が置かれ関門の事務にあたりました。

当時、蟹田、今別は二浦といわれ、町奉行は付近山林の木材の移出管掌に当たり、この行政組織は明治の世まで続きました。

明治4年廃藩置県が実施され、旧今別村は、蟹田5小区の、旧一本木村は下後潟組第一大区5小区の管轄となっています。

明治21年町村制が発布され、旧今別村は三厩村と分離して今別村に、旧一本木村は、明治23年平舘村から分離して一本木村にそれぞれ改称されました。

昭和30年3月に今別村と一本木村が合併して今別町となり、現在に至っています。

# 序論

## 第2節 自然的条件

当町は津軽半島の先端部に位置し、北は津軽海峡に面し、南西は五所川原市市浦、東は外ヶ浜町平館、西は外ヶ浜町三厩、南は外ヶ浜町蟹田に隣接した臨海山村です。

町の面積は125.27km<sup>2</sup>で、町の中心部である今別川流域低地の西方を、津軽半島脊梁山脈の北部山塊が、東北部を袴腰岳(707m)を中心とする袴腰地塊がとりかこみ、これら山地の標高500m線あたりから、北部海岸線に向かって緩傾斜、半摺鉢形状の様相を呈しています。

このような地形は当町の気候にも大きく影響し、夏期には偏東風(やませ)が強く、低温により農作物に悪影響を与え、冷害に見舞われやすい地域になっています。

また、12月から3月までの冬期間は降雪も多く、昭和54年には特別豪雪地帯に指定されていますが、当町は四方が山や川、海に囲まれ、四季を通して緑が美しく、自然環境に恵まれた地形にあります。

近隣の都市については、当町の南東部に青森市が、南西部には五所川原市、弘前市があり、広域行政で関係が深い青森市とは約50km、五所川原市は約55km、弘前市は約90kmの距離に位置しています。



## 第3章

# 計画の期間と位置づけ

第5次今別町総合計画は、平成28年度から令和7年度までの10年間の計画であり、基本構想・基本計画・実施計画により構成していましたが、「今別町まち・ひと・しごと創生総合戦略」と連動させるべく基本構想の計画期間を1年間短縮し、令和6年度までの9年間とします。

また、後期基本計画及び後期実施計画を4年間とします。

### ●基本構想

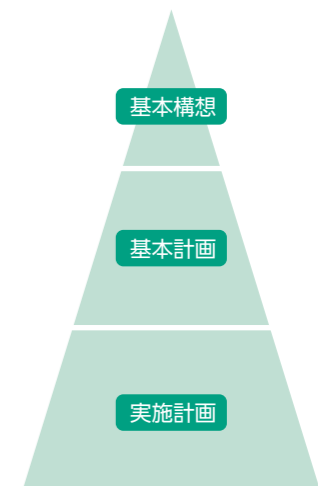
基本構想の計画期間は9年とし、平成28年度から令和6年度までとします。

### ●基本計画

基本計画は、前期基本計画を平成28年度から令和2年度まで、後期基本計画を令和3年度から令和6年度までとします。

### ●実施計画

実施計画は、基本計画で定めた施策をどのように実施していくかを具体的に示したものです。計画期間は前期計画を5年間、後期計画を4年間とします。



平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
			基本構想(計画期間9年)						1 年 短 縮
			前期基本計画(計画期間5年)		後期基本計画(計画期間4年)				
			前期実施計画(計画期間5年)		後期実施計画(計画期間4年)				

# 序論

## 第4章

### 前期計画の評価

平成28年度から令和2年度の第5次今別町総合計画の前期実施計画については、平成28年3月26日に開業した北海道新幹線奥津軽いまべつ駅の周辺環境整備、駅を拠点とした二次交通の構築など受入体制の整備が図れました。また、いまべつ総合体育館の建設によりスポーツを通じた幅広い広域交流を推進した交流人口の拡大、特産品である「いまべつ牛」のブランド化事業、移住・定住事業としてお試し住宅の整備など、人口減少対策や地域の活性化となる事業について積極的に取り組み、概ね計画どおりに実施され、また、目標達成に必要な新たに実施した事業もありました。

しかし、社会情勢の変化や財源事情により、繰り延べや中止した事業もあり、後期実施計画では前期の検証・分析を踏まえ、これまで取り組んできた基盤整備を活かしながら、将来に渡り持続可能で町民の皆さまが安心して暮らせるまちづくりの指針となることを目標に向けた計画の策定となります。



第1表 第5次今別町総合計画(前期計画)実施計画の状況

区 分	事業数			
	計画	実施済	延期・中止	新規
第1章 産業振興により地域の活力を創出し定住を促進するまち	15	12	3	0
活力に満ちた産業の振興	6	6	0	0
北海道新幹線「奥津軽いまべつ駅」開業を機会に交流の促進	9	6	3	0
第2章 地域資源を活かした交流を促進し地域活性化を推進するまち	8	7	1	3
快適で住みやすい生活環境の形成	1	1	0	2
未来を担う人づくりの推進	5	4	1	0
適正な土地利用の推進	2	2	0	1
第3章 だれもが活き活き安心して暮らせる健康長寿のまち	19	14	5	6
健康に暮らせる保健・医療・福祉の充実	2	1	1	0
利便で暮らしやすい生活基盤の充実	12	9	3	6
安心して暮らせる安全基盤の充実	5	4	1	0
計	42	33	9	9

